

例 会 要 旨

2011年1月24日
於 筑波大学筑波キャンパス

東南アジア大陸部の統計未整備地域におけるフィールドワーク調査

横山 智 (名古屋大学)

博士論文で対象とした統計・地図未整備地域におけるフィールドワークの事例と、異分野の研究者との共同研究を通して意識した人文地理学の特徴と可能性について報告した。

ラオスは、国が管理する公式な統計が不正確であり、大縮尺の地図も作製していない。この問題を克服するため、統計に関しては悉皆調査を行い、地図に関しては歩測による測量およびGPS機を用いた観測によってベースマップを作製した。ベースマップから様々な主題図を描くことができ、主題図の作製および解釈を通してスケール概念の重要性に気が付いた。

就職後は異分野の研究者と共同研究を行う機会が増え、人文地理学の特徴と可能性を意識するきっかけとなった。人文地理学の長所は、地域を機能地域ととらえて地域間ネットワークを解明することができる点、地図によって説得力のある説明ができる点、総合的な見方ができる点、地域の現象を空間スケールでとらえることができる点である。一方で短所は、現状の記述に終始しがちである点、研究成果を地域に還元する視点が弱い点、地域研究の拠点機関に地理学者がおらず地理学の研究成果が参照されにくい点である。

地理学特有の総合的な見方は、近年の分野の細分化によって失われつつある。地理学のユニークさを維持するためにも、自然地理を含めた幅広い知識を身につけ、よりエリア・スペシフィックな見方ができるようになる必要がある。また、ファクト・ファインディングで終わらず、現状の記述を理論的に説明する必要がある。こうした努力の積み重ねが、さらなる地理学の強みに結びつくのではないだろうか。

2011年2月23日
於 筑波大学筑波キャンパス

地球をフィールドワークする —ブタの遊牧から考える—

池谷和信 (国立民族学博物館)

地理学は自然とヒトのつながり方をテーマとしており、地球を捉えるために生まれた学問である。地理学最大の魅力はフィールドワークである。緻密なフィールドワークによって、定説を覆すことがある。分かっていることを確認するための作業はフィールドワークではない。演者は、これまで存在が知られていなかったブタの遊牧がバングラデシュに現存していることを突き止め、5年間に渡って研究を続けてきた。バングラデシュにはブタの遊牧に関する統計すら作成されていなかったが、ブタの遊牧に関して、イスラ